

炭素生産性と企業業績

株式会社 大和総研
調査本部 河口真理子
2017年7月10日

CO2排出量と 企業業績・株価パフォーマンスには面白い傾向がみられた

- ・ 大和総研が「売上高当たりのCO2排出量と 企業の業績、および 株価パフォーマンスとの関係」を分析したところ

**売上高あたりCO2排出量を「少ない/減らしている 企業」
の業績及び株価パフォーマンスは
売上高あたりCO2排出量が「多い/増やしている企業」
に比べ良好な傾向が確認された。**

炭素生産性と企業業績

図表10. 売上高当たりCO₂排出量の増減と組み合わせた場合のROA、ROE

グループ	社数 (社)	ROA (%)				ROE (%)				
		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	
対象企業全体	543	2.3	3.3	3.4	3.3	4.2	7.5	6.7	6.8	
(A) 排出量の水準小	270	2.9	3.6	3.7	3.6	6.6	8.6	8.0	7.5	
(B) 排出量の水準大	273	1.7	2.9	3.1	2.9	1.8	6.4	5.4	6.1	
(イ) 排出量減少	388	2.3	3.2	3.5	3.4	4.4	7.4	7.3	6.8	
(ロ) 排出量増加	155	2.2	3.4	3.0	3.0	3.7	7.8	5.2	6.7	
複 数 指 標	(A)かつ(イ)	193	3.2	3.6	3.8	3.7	7.5	8.7	8.2	7.5
	(A)かつ(ロ)	77	2.2	3.6	3.2	3.3	4.2	8.2	7.5	7.4
	(B)かつ(イ)	195	1.5	2.8	3.3	3.0	1.3	6.0	6.4	6.2
	(B)かつ(ロ)	78	2.1	3.2	2.8	2.6	3.1	7.4	3.0	6.0

(出所) 経済産業省「環境報告書プラザ」、東洋経済新報社より大和総研作成

注) ROA= 総資産利益率、ROE 株主資本利益率

大和総研 伊藤正晴「ESGファクターと企業パフォーマンス・上」

http://www.dir.co.jp/research/report/esg/esg-report/20170525_012007.html

炭素生産性と株価

図表6. 売上高当たりCO₂排出量の増減と組み合わせた場合のリターン

グループ		社数(社)	年率リターン(%)					
			5年間	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
市場全体		3,145	21.6	22.9	62.3	18.7	12.9	7.4
(A)	排出量の水準小	270	22.4	23.8	58.6	16.4	15.7	7.2
(B)	排出量の水準大	273	17.2	10.0	48.1	19.8	11.2	7.5
(イ)	排出量減少	388	20.5	17.2	54.7	20.0	13.0	7.1
(ロ)	排出量増加	155	18.2	16.1	49.8	13.5	14.4	7.9
複 数 指 標	(A)かつ(イ)	193	23.1	26.1	59.9	17.8	13.1	7.6
	(A)かつ(ロ)	77	20.6	18.2	55.4	12.9	22.0	6.2
	(B)かつ(イ)	195	17.8	8.4	49.6	22.1	12.9	6.7
	(B)かつ(ロ)	78	15.7	14.0	44.2	14.0	6.9	9.5

(注)5年間は、2012年初に等金額投資し5年間保有し続けたときの年率リターン。

各年は、年初に等金額投資し1年間保有したときのリターン。

(出所)経済産業省「環境報告書プラザ」、東洋経済新報社等より大和総研作成

同「ESGファクターと企業パフォーマンス 中」

http://www.dir.co.jp/research/report/esg/esg-report/20170705_012124.html

御清聴ありがとうございました

本資料は投資勧誘を意図して提供するものではありません。

本資料記載の情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。

(株)大和総研の親会社である(株)大和総研ホールディングスと大和証券(株)は、(株)大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。

内容に関する一切の権利は(株)大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。